

第9回中部 MIST 研究会 プログラム



会 期:2018(平成 30)年 2 月 24 日(土)13:30~17:15
(受付:13:00~開始)

会 場:浜松アクタワー25 階

TKP 浜松アクタワーカンファレンスセンター【ホールA】

〒430-7725 静岡県浜松市中区板屋町 111-2

参加費:医師 2,000 円 コメディカル 1,000 円

主 催:中部 MIST 研究会

日整会単位取得予定の先生は、日整会会員 IC カードをお持ちください

参加者のみなさまへ

- 受付にてお名前、ご所属先を芳名帳にご記入のうえ、参加費(医師:2,000 円、コメディカル:1,000 円)をお支払いください。
- 日整会教育研修単位をご希望の方は、1,000 円をお支払いください。
- 日本 MIST 研究会の入会も受け付けております。入会ご希望の方は、所定の入会申込書に必要事項をご記入のうえ、受付にご提出ください。後日事務局より登録完了のメールを送信いたします。
申込書ご提出から 1 週間経過しても登録完了メールが届かない場合には、事務局
(Tel:052-751-8197 E-mail:mist_central@hachiya.or.jp)までご連絡ください。

発表規定

- 今回の発表は PC によるプレゼンテーションのみといたします。その他スライド、ビデオ等は使用できません。発表用スクリーンは1面です。
- 発表用 PC は Office2010 をご用意いたします。
- メディアにて発表データをご準備いただく場合、メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、ウイルス駆除ソフトにてチェックしたものをご準備くださいますようお願いいたします。
- 発表データに動画・音声ファイルがある場合、また Macintosh をご使用の場合には、ご自身の PC をご使用ください。Macintosh 等、プロジェクタとの接続にディスプレイアダプタを必要とする PC をご使用の場合は、必ずディスプレイアダプタをお持ちください。
- 1 名に優秀演題賞を授与いたします。
- 演題発表時間は、特別講演50分+質疑応答10分・一般演題セッション5分+質疑応答3分です。
- 一般演題は終了時刻 1 分前にベルが 1 回、終了時刻ちょうどにベルが 2 回鳴ります。セミナーの円滑な進行の為、ご発表は時間厳守にてお願いいたします。

プログラム

13:30

開会のご挨拶

戸川 大輔

13:40~14:40

一般演題A

座長

明田 浩司

A-1. 頚椎損傷に対する椎弓根スクリュー固定術後、内視鏡下脊椎挿入物除去術を実施した1例

信州大学 整形外科 二木 俊匡(ふたつぎ としまさ)他

A-2. 上位胸椎にPPSを用いて手術を施行した胸椎化膿性脊椎炎の1例

豊川市民病院 整形外科 白神 宗男(しらが ひろお)他

A-3. 尾側終板が損傷されていない腰椎破裂骨折に対する1椎間固定術(後方前方、後方進入椎体間)の意義、問題点の検討

岐阜市民病院 整形外科 宮本 敬(みやもと けい)他

A-4. 脊髄腫瘍に対する recapping laminoplasty の有用性

豊橋医療センター 整形外科 八木 清(やぎ きよし)他

A-5. バルーン椎体形成術後の退院日数に関する要因

福井総合クリニック リハビリテーション科 理学療法士 吉岡 準平(よしおか じゅんぺい)他

A-6. BKP 術後の新規骨折はテリパラチドで防げるか?

高岡整志会病院 整形外科 澤田 利匡(さわだ としただ)他

A-7. 限局した T2 高信号を有する骨粗鬆症性椎体骨折(OVF)に対する BKP 介入例の検討

福井総合病院 整形外科 水野 勝則(みずの かつのり)他

14:40~14:55

休憩

14:55～15:55

一般演題 B

座長

宮本 敬

B-1. 2 個のブーメラン型ケージを設置する dural boomerang TLIF の短期成績

北須磨病院 整形外科 大久保 直規(おおくぼ なおき)他

B-2. Boomerang type cage 至適挿入方法の検討

名古屋第二赤十字病院 整形外科 鶴飼 淳一(うかい じゅんいち)他

B-3. LLIF を用いた成人脊柱変形手術における術後 coronal oblique take off の危険因子

成田記念病院 整形外科 中井 慶一(なかい けいいち)他

B-4. LLIF 施行後 2 年の骨癒合評価～PLIF との比較

村瀬病院 整形外科 藤原 達彦(ふじわら たつひこ)他

B-5. ナビゲーションガイド下側臥位単一体位による LIF-PPS

江南厚生病院 脊椎脊髓センター 大内田 隼(おおうちだ じゅん)他

B-6. 転移性脊椎腫瘍を合併した変性すべり症に対し LLIF による矯正固定術を行った 1 例

名古屋第二赤十字病院 整形外科 鈴木 喜貴(すずき よしたか)他

B-7. 腰椎側方椎体間固定術による 3 次元的な腰椎椎間構造の変化

三重大学医学部附属病院 整形外科 明田 浩司(あけだ こうじ)他

15:55～16:00

休 憩

16:00～17:00

特別講演

座長

戸川 大輔

L-1. CBT 法を用いた低侵襲 PLIF の実際と問題点～癒合率改善のための対策を中心として～

関西ろうさい病院 整形外科 大和田 哲雄(おおわだ てつお)

※日整会教育研修単位 専門医資格継続単位(07)、脊椎脊髓病医資格継続単位(SS)

17:00

次回研究会 ご案内

宮本 敬

17:05

優秀演題賞発表・閉会のご挨拶

戸川 大輔

※ 閉会のご挨拶の後、参加者写真撮影を行います

抄 録 集

Abstracts

特別講演

座長：浜松医科大学 長寿運動器疾患教育研究講座 戸川 大輔先生

CBT 法を用いた低侵襲 PLIF の実際と問題点 ～癒合率改善のための対策を中心として～

講師：関西ろうさい病院 整形外科 大和田 哲雄（おおわだ てつお）先生

一般演題 A

A-1

頚椎損傷に対する椎弓根スクリー固定術後、内視鏡下脊椎挿入物除去術を実施した 1 例

二木 俊匡 (ふたつき としまさ) ①、高橋淳①、清水政幸②、倉石修吾①、加藤博之①

①信州大学 整形外科 ②松本市立病院 整形外科

20 歳男性の頚椎損傷に対して、椎間可動性を温存する目的で骨移植せず椎弓根スクリー固定術を行った。骨癒合を得た後、内視鏡を使用することで再度の広範囲な展開を必要としない低侵襲な挿入物除去が可能だった。

A-2

上位胸椎に PPS を用いて手術を施行した胸椎化膿性脊椎炎の 1 例

白神 宗男 (しらが ひろお) ①、大塚聖視②、鈴木伸幸②、高橋育太郎①

①豊川市民病院 整形外科 ②名古屋市立大学 整形外科

重度の全身性アトピー性皮膚炎を背景とした胸椎化膿性脊椎炎の高度骨破壊の症例に対して、上位胸椎へ PPS を用いて手術を施行した。感染沈静化し創部感染もなく、術後 8 か月で椎体間が癒合し抜釘した。上位胸椎に対する透視下 PPS 刺入の工夫について報告する。

A-3

尾側終板が損傷されていない腰椎破裂骨折に対する 1 椎間固定術 (後方前方、後方進入椎体間) の意義、問題点の検討

宮本 敬 (みやもと けい) ①、近藤祐一①、清水克時①、増田剛宏②、日置暁③、下川哲哉④、伏見一成⑤、秋山治彦⑥

①岐阜市民病院 整形外科 ②木沢記念病院 脊椎センター ③松波総合病院 脊椎センター
④大垣徳洲会病院 整形外科 ⑤岐阜大学 地域医療運動器医学 ⑥岐阜大学 整形外科

尾側終板が損傷されていない腰椎破裂骨折に対し、1 椎間固定術 (後方前方、あるいは後方進入椎体間) を施行しており、通常破裂骨折に対して行われる above-1, below-1 の 2 椎間固定を適用する機会が減っている。本病態に対する 1 椎間固定術の意義、問題点について検討を行ったので報告する。

A-4

脊髄腫瘍に対する recapping laminoplasty の有用性

八木 清 (やぎ きよし) ①、柴田康弘①、水谷潤②

①豊橋医療センター 整形外科 ②名古屋市立大学病院 整形外科

Recapping laminoplasty は後方要素が温存できるため、低侵襲手術である。今回 recapping laminoplasty 13 例の術後成績から、その有用性と問題点を検討したので報告する。

A-5

バルーン椎体形成術後の退院日数に関係する要因

吉岡 準平 (よしおか じゅんぺい) ①、清水徹郎①、大谷浩樹①、藤本昭②、水野勝則③

①福井総合クリニック リハビリテーション科 ②福井医療大学 保健医療学部 ③福井総合病院 整形外科

バルーン椎体形成術後の退院日数に影響を与える要因を調査した。結果、背筋力と VAS が抽出された。退院日数短縮のためには、背筋力向上と疼痛コントロールが重要と考える。

A-6

BKP 術後の新規骨折はテリパラチドで防げるか？

澤田 利匡 (さわだ としただ) ①、中野恵介①、田中利弘①、川岸利光①

①高岡整志会病院 整形外科

当院ではこれまで BKP 術後の新規骨折の危険因子を低骨密度と報告したが (2017 J Spine Res)、術後にテリパラチド daily 製剤を使用した患者の経過について報告する。

A-7

限局した T2 高信号を有する骨粗鬆症性椎体骨折 (OVF) に対する BKP 介入例の検討

水野 勝則 (みずの かつのり) ①、勝尾信一①、尾島朋宏①、山門浩太郎①、安藤智成①、小坂正裕①、豊岡加朱①、谷中惇①、林正岳①

①福井総合病院 整形外科

OVF 受傷早期の MRI における限局した T2 高信号は、偽関節の危険因子とされる。今回、T2 限局高信号を有する OVF に対して BKP の介入を行った症例を、介入時期によって 2 群に分け比較検討した。

一般演題 B

B-1

2 個のブーメラン型ケージを設置する dural boomerang TLIF の短期成績

大久保 直規 (おおくぼ なおき) ①、中原誠之①

①北須磨病院 整形外科

当院では 2016 年 5 月より前弯獲得と初期固定性向上の両者を目的として椎間腔の前方に 2 個のブーメラン型ケージを平行に設置する dual boomerang TLIF を行っている。本法の手術手技と短期成績を報告する。

B-2

Boomerang type cage 至適挿入方法の検討

鵜飼 淳一 (うかい じゅんいち) ①、佐藤公治①、安藤智洋①、鈴木喜貴①、岩野壮栄①

①名古屋第二赤十字病院 整形外科

Boomerang type cage は椎体間前方中央に挿入設置することで、より良い力学的安定性や腰椎局所前弯を獲得可能であるが、その挿入方法がやや複雑であるために設置位置が一定化しづらい。今回我々は、CAD (= computer-aided design) システムを用いて至適挿入方法について検討した。

B-3

LLIF を用いた成人脊柱変形手術における術後 coronal oblique take off の危険因子

中井 慶一 (なかい けいいち) ①、大和雄②、松山幸弘②

①成田記念病院 整形外科 ②浜松医科大学 整形外科

成人脊柱変形手術で LLIF (Lateral Lumbar Interbody Fusion) は低侵襲化、変形矯正においての有用性が報告されている。しかし変性側弯症では LLIF による冠状面での強い矯正力により coronal oblique take off が生じる症例が存在する。術後 coronal oblique take off のリスク因子を検討した。

B-4

LLIF 施行後 2 年の骨癒合評価～PLIF との比較

藤原 達彦 (ふじわら たつひこ) ①、今西隆夫①、宮崎晋一①、浅沼由美子①、近藤哲士①、
塩川靖夫①

①村瀬病院 整形外科

LLIF は使用するケージや周囲の骨移植など、従来の PLIF とは若干の手技上の違いがある。今回、2 年以上経過した LLIF 症例の骨癒合評価を、ほぼ同時期に施行した PLIF 症例と比較検討したので報告する。

B-5

ナビゲーションガイド下側臥位単一体位による LIF-PPS

大内田 隼 (おおうちだ じゅん) ①、金村徳相①、佐竹宏太郎①、中島宏彰①、石川喜資①、
世木直喜①

①江南厚生病院 脊椎脊髄センター

0-arm ナビ下に LIF と PPS を側臥位での単一体位で行うことで、手術室在室時間の短縮が可能である。一方で、二人の十分な経験を有する術者が連携をとりながら手術を行う必要があり、またその体位から術中出血量は多くなる傾向にあり、今後の検討課題である。

B-6

転移性脊椎腫瘍を合併した変性すべり症に対し LLIF による矯正固定術を行った 1 例

鈴木 喜貴 (すずき よしたか) ①、佐藤公治①、安藤智洋①、鵜飼淳一①

①名古屋第二赤十字病院 整形外科

55 歳女性、乳癌多発脊椎転移に対し放射線治療の既往あり。2 度の第 3 腰椎変性すべり症。第 4 腰椎椎体の後方終板直下に転移性腫瘍病変を認めたため、後方からの終板操作を避け LLIF による間接除圧と PPS による固定を行った。腫瘍病変の播種なく良好な結果が得られた。

B-7

腰椎側方椎体間固定術による 3 次元的な腰椎椎間構造の変化

明田 浩司(あけだ こうじ)①、竹上徳彦②、須藤隆夫②、須藤啓広②

①三重大学医学部附属病院 整形外科 ②三重大学大学院 運動器外科学

LLIF (lateral lumbar interbody fusion)は変形矯正、効果的な椎間板高の回復を可能とする。腰椎は解剖学的に複雑な 3 次元構造を呈しており、LLIF による椎間構造の変化を定量するには 3 次元画像解析が必要である。本研では 3 次元 CT 形態計測にて LLIF 術前後の椎間板高および椎間孔径の変化を定量化したので報告する。

ご協賛いただいた企業様

- 株式会社ロバート・リード商会

- ニューベイシブジャパン株式会社
- 日本ストライカー株式会社

- 株式会社日本エム・ディ・エム
- メドトロニックソファモアダネック株式会社
- 株式会社アルファテック・パシフィック
- ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 デピューションセス・スパイン事業部
- 帝人ナカシマメディカル株式会社
- HOYA Technosurgical 株式会社

- ファイザー株式会社
- 旭化成ファーマ株式会社
- アステラス製薬株式会社
- アルケア株式会社
- エーザイ株式会社
- MSD 株式会社
- 塩野義製薬株式会社
- 第一三共株式会社
- 大正富山医薬品株式会社
- 武田薬品工業株式会社
- 帝人ファーマ株式会社
- 日本イーライリリー株式会社
- 久光製薬株式会社

ご協力いただき誠にありがとうございました